

「まさか！のか心は災害のてき」

広島県 熊野町立熊野第一小学校 5年 ^{せみたに} 蟬谷 ^{みく} 実紅

2018年7月7日、西日本ごう雨災害で川のはんらんや土しゃくずれなどにより、たくさんの方が死亡・行方不明となり、たくさんの方の被害が発生しました。

私はその時4才でした。あまり覚えておらず、祖母といとこが一緒にうちに数日泊まってくれて、ただうれしかった記憶しかありません。あとからひなんをするためにうちにきていたと知りました。その時の事を祖母が、話を聞かせてくれました。

祖母はねていたら朝5時すぎごろとつ然せ中が冷たいなと思ったそうです。すると床がぬれて水がしん水している事に気づき飛び起きたそうです。外を見ると家の周りは土石流と大量の水で車も流されていたそうです。なんとか裏から家を出てとなりに住む私のいとこの家族とひなんをしたそうで、危機一ぱつだったと言っていました。まさか、と思うことがおきてしまったと言っていました。

私の住んでいる熊野町大原ハイツでも土石流が家をのみこみ12名の方が、なくなりました。私は今年の7月7日に、大原ハイツに献花に行きました。今は砂防ダムがつくられてあの時の写真や動画でみた風景がうそのようにきれになり、土石流で亡くなられた方の家の後はただ広い空地になって、とても広く感じました。こんなに広いはん囲に土石流が流れ、大きな家が何軒も一しゅんで飲み込まれたのだと思うと、とても信じられない思いでした。誰もが、まさか…と思ったと言っていました。

調べてみると、この西日本ごう雨では、ひなんの「勧告」や「指示」がでて、1%未満の人しかひなんしなかったそうです。私はびっくりしました。なんですぐに、にげなかったの？ひなんしなかったの？と祖母に聞きました。すると、何十年も住んできて一度もそんな事は起こったことがないし、大丈夫だろうと勝手に思いこんでいたのよと言っていました。私はその話を後から知ったから、なんでにげなかったのだろうと思いましたが、今まで起こったことがない事は、人は大丈夫だと勝手に思いこむところがあるんだと思いました。祖母は、その思いこみがひなんのおくれにつながってしまったと言っていました。今回西日本ごう雨について、母や祖母に話を聞いたり、実際に災害のあった場所へ行って話を聞く事ができて、ごう雨災害、台風、地しんと自然災害のおそろしさを知りました。まさか！という考えをすて、ふだんから防災の備えと準備、話し合いをすることが、大事だと思いました。そして近所の方たちや、人と人とのつながりは、とても大切なことだと思いました。多くの方が亡くなられたこの災害を私たちは絶対に忘れてはいけないと思います。